

氏名	櫻田 貴道
職位	COE 研究員
<p>研究概要</p> <p>組織論において、組織の制度化は様々な研究によって論じられている。そのなかで、組織の制度化はそれぞれの研究関心から切りとられた側面が論じられており、それぞれの観点で組織の制度化を明らかにしている。それぞれの理論は理論的問題や論争をもっており、組織の制度化を説明する統一的な枠組みが必要であるという問題意識をもとに「組織の制度化モデルの構築」の執筆を行った。</p> <p>論文では、組織の制度化に関する議論として、セルズニックの制度理論、新制度学派、組織文化論を取り上げている。これらの理論は、それぞれの関心から組織の制度化について理論化しているが、組織の制度化に主体的に関与できるかどうかについて意見が分かれているとすることができる。セルズニックや機能主義的組織文化論は主体的に関与できると考えており、新制度学派や解釈主義的組織文化論は、主体的に関与できない、もしくは、関与しようとする視点をもっていない。これらは一見矛盾しているように見える。セルズニックが言うように、制度化の現象は日々の相互作用に基礎づけて理解できるはずであり、矛盾しているように見える現象もそうすることによって矛盾のないものとして理解可能になると考えられる。そのために、バーガーとルックマンの制度理論とバーナードの組織理論を参考にして相互作用を通じて形成される組織の制度化のプロセスを検討し、制度化モデルを提示している。</p> <p>提示したモデルは、組織における制度形成プロセスを明らかにし、これまでの組織の制度化に関する諸研究の研究が各々部分的にとらえていた組織の制度化の側面を統合するモデルとなっており、さらに主体的に制度を管理するための理論的基礎を提供している。</p>	
<p>業績リスト</p> <p>論文 「組織の制度化モデルの構築」『社会・経済システム』第 30 号、71-79 頁</p>	